

### 3. 産業構造

#### (1) 産業構造

- ◆半数を占めていた第一次産業は減少し、第二次・第三次産業が増加。
- ◆県全体と比較すると、第一次・第二次産業の比率が高い。

産業別就業者数の推移を見ると、昭和40年には半数を占めていた第一次産業は年々減少し、平成17年には17.3%となっている。第二次産業は、建設業と製造業の就業者数の増加により比率が高まっているが、平成12年をピークに減少に転じた。第三次産業は増加傾向にあり、平成7年以降は比率が50%以上となっている。

青森県全体と比較すると、第一次産業と第二次産業の比率は黒石市が上回っている。

表 1-3-1 産業別就業者数の推移

	黒石市									青森県
	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成17年
総数	18,341	19,396	18,999	20,143	19,873	20,257	20,039	20,269	19,375	685,401
農業	9,454	8,738	6,837	5,795	5,312	4,824	3,980	3,591	3,311	84,180
林業	144	119	129	159	123	103	85	59	43	1,560
漁業	12	26	25	25	23	12	7	3	1	9,985
鉱業	34	45	99	52	44	18	6	29	17	594
建設業	1,127	1,500	2,112	2,699	2,545	2,355	2,689	2,694	2,243	75,155
製造業	1,139	1,513	1,658	2,073	2,352	3,359	3,132	3,232	2,813	71,098
電気・ガス熱供給・水道業	61	60	64	74	98	97	91	97	47	2,763
情報通信業										165
運輸業	623	708	774	899	851	910	929	966	841	30,828
卸売・小売業・飲食店	2,790	3,041	3,366	3,869	3,739	3,608	3,821	3,844		
卸売・小売業									3,084	119,577
金融・保険業	306	274	324	368	376	420	369	360	325	15,048
不動産業		43	38	52	51	60	49	58	63	4,142
飲食店、宿泊業									785	31,851
医療、福祉									2,050	68,070
教育、学習支援業	2,222	2,894	3,065	3,530	3,810	3,893	4,221	4,659	624	27,979
複合サービス事業									277	9,751
サービス業※									1,992	82,570
公務※	428	428	496	547	547	591	656	666	592	37,513
分類不能の産業	1	7	12	1	2	7	4	11	102	6,040

※他に分類されないものを含む

出典：国勢調査各年版

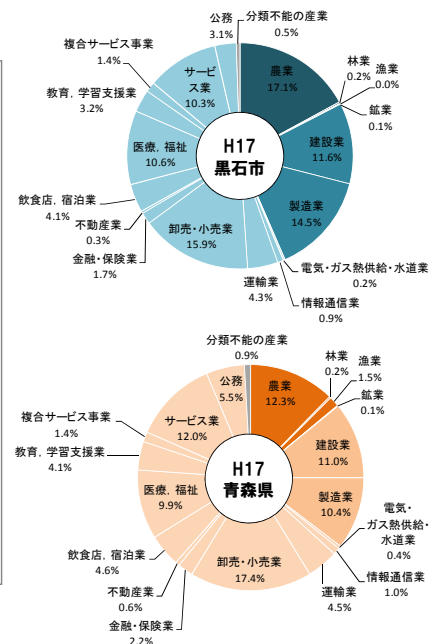
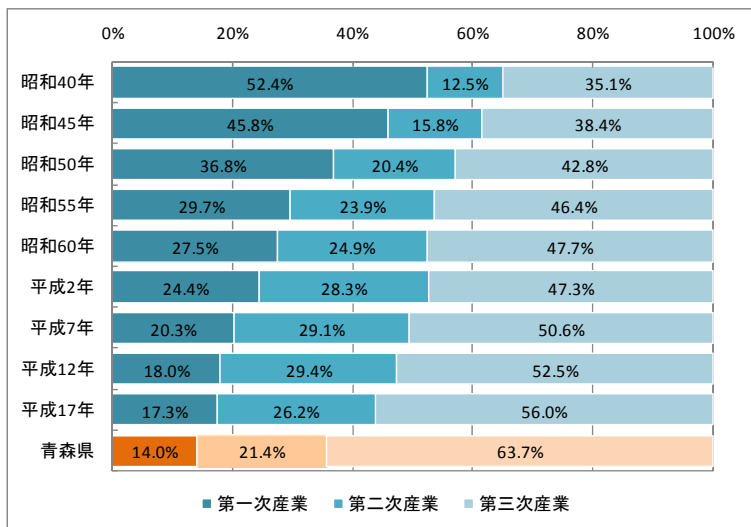


図 1-3-1 産業別就業者比率の推移

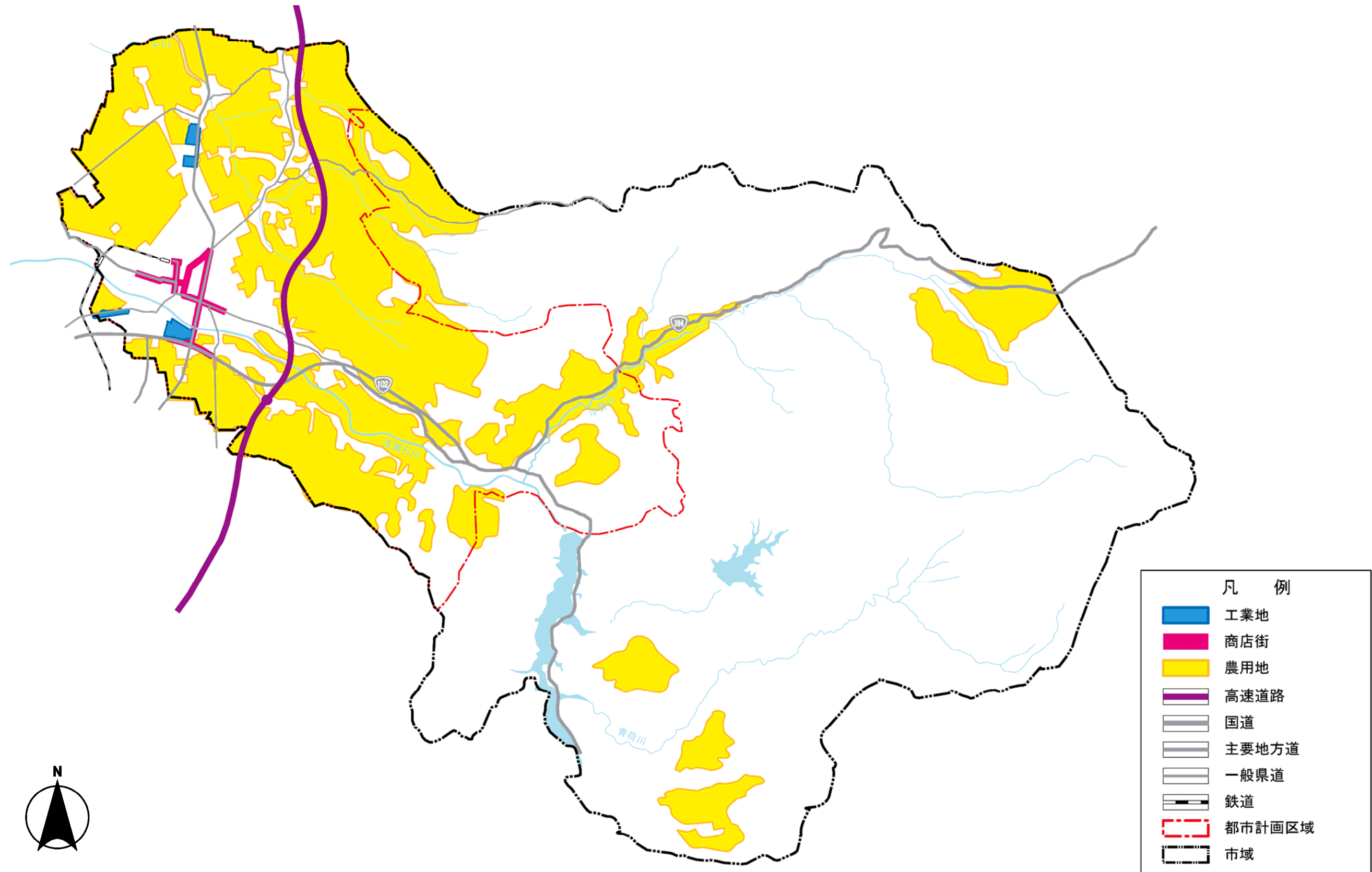


図 1-3-2 産業位置図

(2) 工業

◆事業所数などが減少するなか、平成17年には製造品出荷額が上昇。

事業所数は平成11年以降、従業者数は平成8年以降減少傾向となっている。製造品出荷額は平成5年を境に低下していたが、平成17年には32,286百万円と上昇している。それに伴って従業者一人当たり製造品出荷額も上昇し、ピーク時並みの1,480万円となっている。

表 1-3-2 工業の推移

	事業所数	従業者数 (人)	製造品 出荷額 (百万円)	従業者一人当り 製造品出荷額 (万円)
昭和56年	78	2,081	24,081	1,157
昭和59年	74	2,324	27,036	1,163
昭和62年	81	2,662	34,115	1,282
平成2年	87	3,240	40,229	1,242
平成5年	95	3,033	45,252	1,492
平成8年	97	2,677	38,588	1,441
平成11年	86	2,734	33,003	1,207
平成14年	67	2,369	29,439	1,243
平成17年	56	2,182	32,286	1,480

出典:工業統計各年版

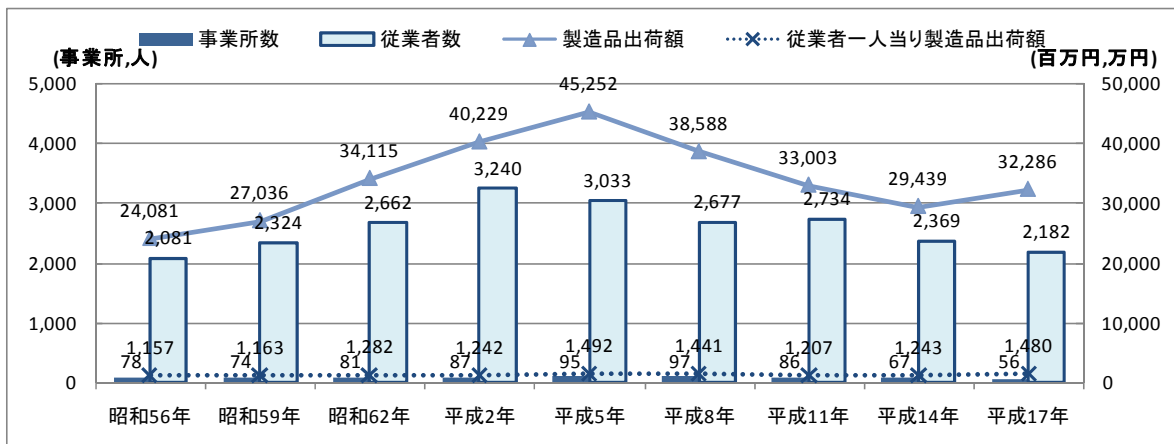


図 1-3-3 工業の推移

(3) 商業

◆商店数などが減少するなか、平成16年には従業者一人当り年間販売額が上昇。

商店数は、昭和60年に大幅に減少して以来、値は小さくなったものの減少傾向は続いている。一方、従業者数は増加傾向にある。年間販売額は、平成11年まで上昇傾向を示していたが、近年は転じて低下しており、平成16年は56,267百万円となっている。従業者一人当り年間販売額は、平成6年をピークに低下しているが、平成16年は1,795万円と上昇している。

表 1-3-3 商業の推移

	商店数	従業者数 (人)	年間販売額 (百万円)	従業者一人当り 年間販売額 (万円)
昭和57年	1,130	3,598	52,558	1,461
昭和60年	725	2,876	51,821	1,802
昭和63年	711	3,139	52,857	1,684
平成3年	681	3,012	56,565	1,878
平成6年	661	3,043	61,703	2,028
平成9年	620	3,163	59,491	1,881
平成11年	619	3,378	61,852	1,831
平成14年	570	3,416	56,751	1,661
平成16年	515	3,134	56,267	1,795

出典：商業統計各年版

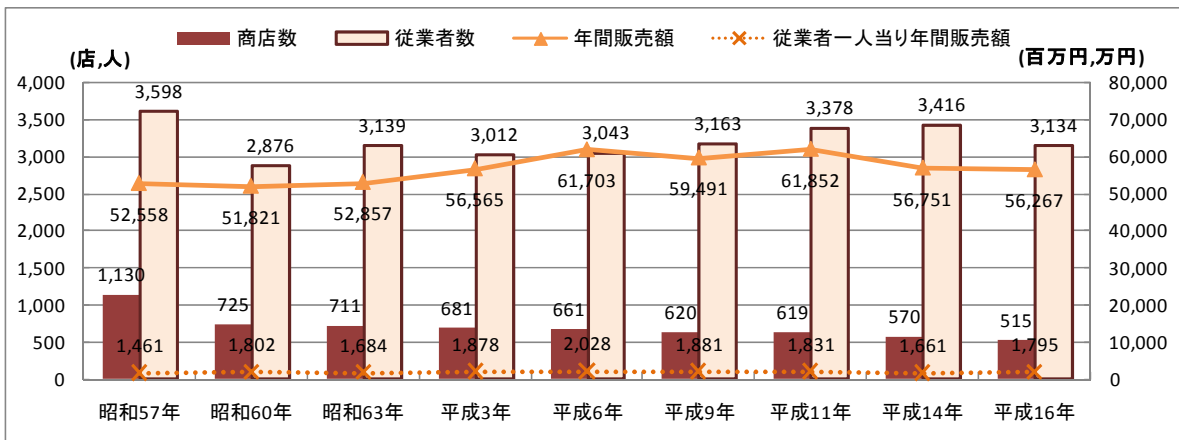


図 1-3-4 商業の推移

(4) 農業

◆農家数、経営耕地面積とも減少。

総農家数は年々減少しているが、専業農家は横ばいで推移している。農業就業人口は、農家数の推移に伴って減少し、平成17年には3,346人と昭和55年の半数程度となっている。

経営耕地面積の推移としては、総面積が昭和60年以降減少している。耕作地別に見ると、田は昭和55年、畑は平成7年、樹園地は平成2年がそれぞれ最大で、それ以降は減少しているが、構成比は概ね田55%、畑7%、樹園地38%で大きな変化は見られない。また、農家1戸当たり耕作面積は増加し続けており、平成17年は130.2aとなっている。

表1-3-4 農家数と経営耕地面積の推移

単位:戸、人

	総農家数	農家		農業就業人口			
		自給的農家	販売農家	専業	一種兼業	二種兼業	
昭和55年	3,436	/	/	315	1,386	1,735	6,013
昭和60年	3,248			309	1,186	1,753	5,612
平成2年	3,009			308	820	1,881	4,706
平成7年	2,740			317	804	1,619	4,595
平成12年	2,517	351	2,166	297	639	1,230	4,046
平成17年	2,109	421	1,688	300	545	843	3,346

出典:農業センサス各年版

単位:a

	総面積	田	畑	樹園地	1戸当たり耕地面積
昭和55年	356,570	213,497	17,897	125,176	103.8
昭和60年	361,143	202,161	23,167	135,815	111.2
平成2年	360,045	196,646	25,670	137,729	119.7
平成7年	341,831	181,610	26,635	133,586	124.8
平成12年	326,295	179,153	23,306	122,748	129.6
平成17年	274,614	140,126	19,681	106,495	130.2

出典:農業センサス各年版

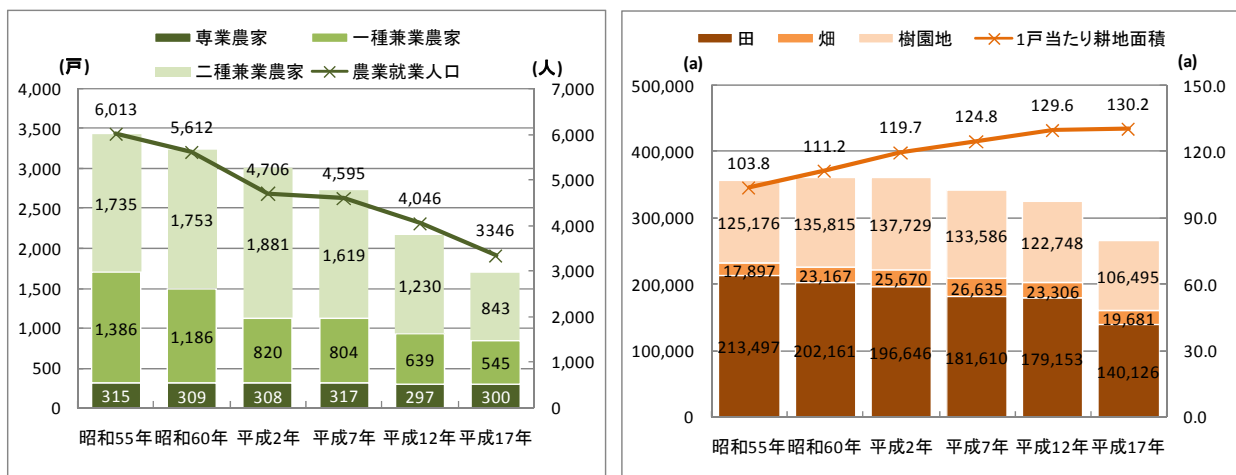


図1-3-5 農家数と経営耕地面積の推移

(5) 観光、レクリエーション・イベント

◆地域に根ざした年中行事が数多く行われている。

黒石市は、古くから「米とりんごと温泉の田園観光都市」として親しまれており、地域に根ざした年中行事が数多く行われている。

観光資源と年中行事を下表に整理し、位置図を次頁に示す。

表 1-3-5 観光資源一覧

名 称	詳 細	
	名 称	詳 細
名所・観光施設	こみせ通り	商家の道路側に設けられた通路空間こみせは、藩政時代に成立したといわれており、歩行者が雨や雪をさけて通行できるというすぐれた機能がある。国の重要文化財「高橋家」など、こみせを持つ伝統的な建物が立ち並ぶ中町こみせ通りは、その独特の景観が貴重であるとして、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。
	虹の湖公園	東北地方でも屈指の規模を誇る浅瀬石川ダムの周辺は、スポーツ広場・展望広場・ふれあい広場・水神の森・遊歩道・ダム資料館等、自然と調和した様々な施設を擁し、虹の湖公園として親しまれている。また、国道102号沿いには、道の駅「虹の湖」が整備されている。
	中野もみじ山	弘前9代藩主寧親公が京都から百余種のかえを取り寄せて以来、大切に守り育てられてきた県下唯一のもみじの景勝地。燃えるような紅葉が滝と溪流に映え、変化に富んだ情景は錦秋の箱庭のような美しさがある。また、中野神社境内には川柳句碑44基が建立され「川柳の杜」としても注目されている。
	黒森山・花しょうぶ園と文学の森	黒森山からは、秀峰岩木山や津軽平野、八甲田連峰をはじめ、遠く陸奥湾なども眺望できる。山の中腹には昔の寺子屋で有名な浄仙寺があり、境内には秋田雨雀・鳴海要吉をはじめとした郷土が生んだ文人の句碑が13基建立され「文学の森」として親しまれている。7月中旬には、200種類もの花しょうぶが一面に咲き乱れる。
	カタクリ群生地	雷山のカタクリの大群生は広さ3ha。一カ所にまとまった群生地としては、国内でも有数の規模といわれている。4月下旬から咲き始める。
	黒石温泉郷	黒石温泉郷には、大きな共同浴場を囲むように湯治用の客舎が立ち並ぶ温湯温泉、ゆるやかに流れる浅瀬石川をはさんで向かい合う落合温泉と板留温泉のほか、ランプの宿として有名な青荷温泉があり、古くから湯治場として栄えている。
	津軽こけし館	全国の伝統こけし約4,000本と津軽の伝統工芸品を常時展示。こけし工人の実演や絵付けの体験学習もできる。
	津軽伝承工芸館	津軽の伝統工芸を直接見て・触れて・体験できる七つの工房や展示資料室が「こみせ」をイメージした建物に並んでいる。中央のこみせ広場に設けられた約46.2mの「100人足湯」ではゆっくりと足湯を楽しむことができる。
	東公園	明治37年4月4日、桜の苗105本が植樹されて以来造成と植樹を重ね、四季を問わず楽しめる木々や花壇が整備され、市民の憩いの場として親しまれている。

名 称	期 間	詳 細	
		名 称	詳 細
年中行事	黒石さくらまつり	4月下旬～5月上旬	桜の木は52種類、650本。毎年多彩なイベントが催され年々にぎわっている。
	温湯丑湯まつり	土用丑の日	土用丑の日に温湯の薬師寺で祈禱した木彫りの牛をひいて共同浴場の浴槽に入れて湯浴させる。湯浴客は裸で牛に触れて無病息災を祈る。
	黒石ねぶたまつり	7月30日～8月5日	黒石ねぶたには、古くから人形ねぶたと扇ねぶたがある。どちらも表面には武者絵、背面には美人画(見送り絵)をもち、人形ねぶたは美しい高欄を持つ。例年、出陣するねぶたが約80台と県内有数を誇る。
	黒石よされ	8月中旬	徳島阿波踊り、岐阜郡上踊りとともに日本三大流しおどりの一つに挙げられる黒石よされは、500～600年前の男女の恋の掛け合い唄であったとされている。盛んになったのは200年前の天明の頃、商工振興政策として力を入れたためといわれている。組踊り、廻り踊り、流し踊りからなり、流し踊りが今のように振り付けされたのは昭和35年からである。平成20年には御幸公園のやぐらを復活させ、今では毎年約3,000人の踊り子が参加している。
	大川原の火流し	8月16日	南北朝時代、戦いに敗れた南朝方戦死者の慰霊と故国をしのぶため、約600年前に始めた精霊流しが起源とされている。アシガヤを編み上げた舟三隻に火を付け中野川を下る。舟の燃え方で翌年の豊凶を占うとともに集落の人たちの無病息災を祈る。
	黒石こみせまつり	9月上旬 2月上旬	こみせの歴史的文化遺産としての価値や認識を深めながら商業の活性化を図るため、秋には三味線演奏や酒蔵見学などを行っている。また冬にはミニかまくらを造りろうそく灯すイベントやひな人形の展示などを行っている。
	りんご狩り	9月上旬～11月中旬	観光りんご園では、風味豊かな新鮮なりんごを直接もぎとり、味わうことができる。
	中野もみじ山ライトアップ	10月中旬～11月上旬	中野もみじ山の全山燃えるような紅葉は、滝と溪流に映え、あざやかな世界を堪能できる。
	黒石りんごまつり	11月中旬	りんごを中心としたまちづくりを進めることを目的に、平成3年から実施している。毎年盛況なりんご市のほか、ふるさと産業展、収穫感謝祭、健康づくり市民の集いなども開催されている。
	旧正マッコ市	2月第1日曜日	藩政時代から続くマッコ市は、黒石商店街協同組合が主催。買い物客に「マッコ」をサービスする。早朝より市内外からの買い物客でにぎわう。
	日本一の雪だるま	2月第2日曜日	平成12年から黒石商工会議所が中心となって雪だるまの大きさと数で日本一に挑戦。平成14年には、高さ31.425mでついに日本一を達成。市民1人1個で4万個を目指している。

出典：2007年市勢概要くろいし



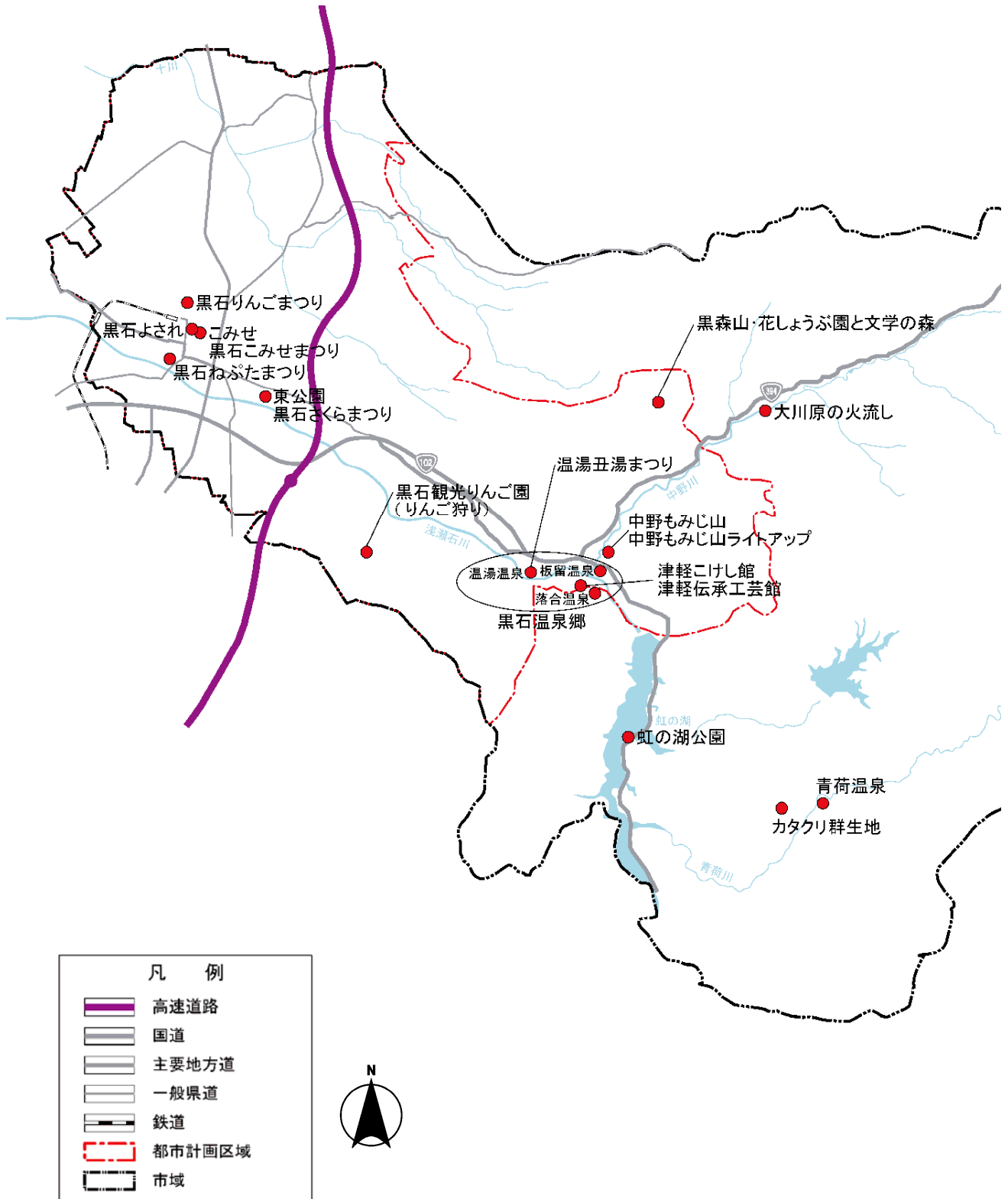


図 1-3-6 観光資源位置図